

令和2年度第2回都城市総合教育会議 議事録

日 時：令和3年2月16日(水)午後2時～午後3時30分  
 場 所：都城市役所本館4階 秘書広報課前会議室  
 出席者：都城市長 池田 宜永、教育長 児玉 晴男  
 教育委員 赤松 國吉、中原 正暢、  
 濱田 英介、岡村 夫佐

発言者	内 容
吉永総合政策部長	<p>定刻になりましたので、ただいまから令和2年度第2回都城市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>本日の進行を務めさせていただきます総合政策部吉永でございます。どうぞよろしくお願いいたします</p> <p>はじめに 池田市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
池田市長	<p>皆様、こんにちは。第2回の総合教育会議ということでございます。よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p>教育委員の皆様には日頃より教育行政に力を注いでいただいております。ありがとうございます。</p> <p>昨年から、新型コロナウイルス感染症の影響で世界中が大変なことになっており、本市も1月中旬頃までは、感染者が非常に多い状態になっておりまして、学校におきましても3学期を予定通り開始できないという状況になりました。</p> <p>学校現場では、大変な状況ではなかったかなと思っております、それぞれの学校で先生方に対応していただきまして、なんとか2月に学校を再開することができ、今に至っているわけです。</p> <p>本市に限って言えば、市民の皆様のご尽力のおかげで、ここ1か月くらいは、感染者も少なくなってきておりまして改めて感謝申し上げたいと思っております。</p> <p>皆様ご存知の通り、早いところでは今週からワクチン接種が始まってまいります。本市におきましても、来月から医療従事者を皮切りにスタートして行けるよう準備しているところでございます。しかしながら、どれだけスピードをあげて取り組んでいけるのかについては、はっきり申し上げることは難しいところでございまして、来年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受ける1年になるのではないかと感じているところでございます。</p> <p>一方で、子供達は一日一日成長していくわけでございまして、コロナが始まったので1年待ってくれというわけにはいきませんので 先生方には、色々な形でご指導いただいて、地域の子どもたちになんとか教育を施せるような環境を整えていければという思いでございます。</p> <p>議題が上がっておりますデジタル化も進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p>

	<p>本日は教育大綱の策定についての報告と2つの議題について意見交換をさせていただきます。皆様にはいろいろな御意見をいただきまして、実りある議論ができればと思っております。</p>
吉永総合政策部長	<p>ありがとうございました。続きまして、児玉教育長ご挨拶をお願いします。</p>
児玉教育長	<p>皆様こんにちは。市長におかれましてはお忙しい中お時間を作っていただきありがとうございます。市長部局と教育委員会が程よい緊張感を保ちながら、教育に関する行政を論じ、思いを共有する場と私は思っております。</p> <p>先ほど市長からもありましたが、都城教育大綱の策定の運びとなりました。思いの共有が形になって現れたものと思っております。作成にあたっては総合政策部が中心になりご尽力いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>また、議論という点においては、教育委員の皆様からは、非常に切り込んだ意見があったなという風に思い返しております。</p> <p>私には願いがあります。教育の分野におけるスマイルつまり笑顔を創造していきたいという願いです。学校に通う子供達はもとより、生涯にわたって学ぶということを通して得られる市民の笑顔を大切にしていきたいという風に思っております。誰一人として取り残すことのないそういう笑顔が咲くといいなと思っております。このような願いが叶うよう闊達な意見交換をお願い申し上げまして、挨拶と代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
吉永総合政策部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは次第4の報告事項に入ります。以降の進行につきましては、池田市長にお願いいたします。</p>
池田市長	<p>はい。それでは私の方で進行をさせていただきます。</p> <p>報告事項「第2期都城市教育大綱の策定について」事務局より説明をお願いします。</p>
総合政策課長	<p>はい。総合政策課長の西川です。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。</p> <p>第2期の教育大綱につきましては、昨年の1月と7月に開催された総合教育会議で審議いただきまして、案を作成したところです。そして、作成した案に関して、昨年の10月7日から11月10日にかけて、パブリックコメントを実施しました。パブリックコメントでは、8名の方から16件の御意見をいただき、いただいた意見を基にいくつか修正を加えております。それがお配りしております報告資料1です。</p> <p>主な変更点を説明させていただきます。</p> <p>8ページをご覧ください。施策の方向性1につきましては、第1期の教育大綱には、地域及び家庭との連携について記載されているが、第2期(案)にはその記載がないとの御意見をいただきました。それを受けまして、今回、施策の方向性1に地域と家庭との連携についての記述を加えております。</p> <p>続きまして、10ページをご覧ください。施策の方向性5については、第1期</p>

	<p>では、適切な配慮を持って障がい児教育を進めると記述しておりましたが、改めて「障がい児教育を進める」と述べることで自身が、障がい児を蔑視しているように感じるとの御意見をいただいておりますので、その記述を削除しております。その他、軽微な文言の修正を行っております。</p> <p>以上が主な変更箇所であり、これらの変更を行なった上で、第2期都城市教育大綱を策定したことを御報告させていただきます。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
池田市長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>第2期都城市教育大綱について、皆様から御意見がありませんか。よろしかったでしょうか。</p> <p>それでは改めて皆様の御協力に感謝申し上げます。なんとか第2期教育大綱を策定することができたわけでありまして、令和3年度以降この教育大綱の下で教育施策の推進を図っていくわけでありまして、皆様には、引き続きお力添えをいただければと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、引き続きまして意見交換です。本日は二つのテーマについて意見交換を行います。最初のテーマは「教育分野におけるデジタル化」でございます。担当課より説明お願いいたします。</p>
総合政策課長	<p>それでは、座って説明させていただきます。</p> <p>～ 都城市におけるデジタル化について説明 ～</p> <p>説明は以上でございます。</p>
美術館長	<p>美術館の武田です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、座って説明させていただきます。</p> <p>～ 芸術分野におけるデジタル化について説明 ～</p> <p>説明は以上でございます。</p>
学校教育課長	<p>学校教育課の深江です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、座って説明させていただきます。</p> <p>～ GIGAスクール構想の実現に向けて ～</p> <p>説明は以上でございます。</p>
池田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは教育分野のデジタル化について御意見はありますか。</p>
赤松委員	<p>都城デジタル化推進宣言を令和元年8月29日になさって市民サービス面・自治体経営面・物産振興面の三本の柱を設定して都城市行政の全分野においてデ</p>

	<p>デジタル化を推進することを明確にされ、全国トップクラスのスピードで推進を宣言しておられることは素晴らしいことです。</p> <p>また、主要なデジタル化施策について、4つ上がっておりますが、4番目の押印廃止については、約9割を廃止されています。考えてみると、印鑑証明をつけなくていいような押印については、特に必要はないのかなと私も感じてはいたのですが、全国に先駆けて実践されているというのは、素晴らしいことだと思っております。</p> <p>お悔やみふるサポート事業というものについては、私も経験がありますが、どの部署に行ってもどの手続きが必要なのか大変苦労いたしました。それを解消する施策がなされているということは、これもまた素晴らしいことだと思いました。</p> <p>資料には、誰一人取り残さない人にやさしいデジタル化を進めていくと記載してあります。高齢者の中にはコンピューターを触ることを億劫がられる方もいらっしゃいます。人にやさしいデジタル化を推進していただくことで、市民の生活は向上していくことと思います</p>
池田市長	ありがとうございました。他にございませんか。
濱田委員	<p>デジタル化を進めるにあたってはパソコンやスマートフォンが広く行き渡っているかということが気になっておりまして、ご近所を見渡してみるとパソコンやスマートフォンに触れているというところがあまり見られないと感じます。</p> <p>OECDのレポートによりますと、日本人は100人につき157のブロードバンド契約をしている、つまり一人が1.6台スマホやパソコンを持っているということになります。しかし、人によっては3台4台と保有している方もいらっしゃいますので、持っていない方も結構いらっしゃるのではないかと思います。そのような方は、情報弱者になってしまう可能性がありますので、デジタル化の推進はもちろんですが、紙ベースでの情報発信も続けていただけたらと思います。</p> <p>それから、驚いたことがマイナンバーカードの普及率です。2年ぐらい前は県が12%ぐらいだったと見た記憶があります。それが市は50.4%です。これは全国的に見てもかなり高い値だと思います。資料にもありますが、マイナンバーカードとデジタル化は対になっておりまして、マイナンバーカードがないと行政の効率化は図れないだろうと思います。これは市民との信頼感でもあると思います。本市のような地方都市は、市民との距離感が近いということもこれだけ高い普及率を誇る理由の一つでもあると思います。ただもっと普及率をあげていかないといけないと思います。</p> <p>デンマークでは生まれた時から番号が付与されている。日本の法制度上許されるのかわかりませんがそのようなことも必要なのかなと感じております。</p>
池田市長	ありがとうございました。他にございませんか。
岡村委員	美術館のWebの市美展の取り組みということなのですから、素晴らしい

	<p>ことだと思えます。多くの演劇やコンサートや美術展などが中止になっている中で、市民の文化活動を実践するという気概をもって取り組んでいただいたと思っております。閲覧者数が昨年の来場者数の3倍以上になっている状況で大きな成果をあげたのではないのでしょうか。</p> <p>一方で、高齢者の出品が例年より少なかったということなのではございますけれどもこの事理由に画像データのアップロードに抵抗があったのではないかなと思っております。これについては、資料7ページに誰一人取り残さない人にやさしいデジタル化とありますので、高齢者等のデジタル弱者に対する支援によって解消できるのではないかと考えております。</p> <p>パソコンやスマートフォンがなくてはならない時代になってきております。教育分野でのデジタル化はリテラシーの習得と合わせて学習の個別化につながって、大きな成果をもたらすものと考えております。時代の流れを読んで多くの予算を費やし、スピード感をもって対応していただけることに大変感謝しております。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。はい、中原委員お願いします。</p>
中原委員	<p>岡村委員からもありましたように、随分と改善が進んでいると思うのですが、ICTのリテラシー格差が問題・課題になってくるのではないかと考えます。通信ネットワーク・セキュリティなどについての理解や操作する能力についても、誰一人取り残さない人にやさしいデジタル化ということで、根気のいる作業かと思っております。</p> <p>とりわけ教育分野におけるICT活用とは、授業改善のための道具としっかり捉えていただいて呼吸をするように日常的に使っていくことが大事なのではないかと考えております。この環境をより深化していくためにも、企業からのサポートなど、教育委員会が行なっているICTの研修などを継続していくことが肝要かと考えております。</p> <p>もちろんこれは、教育現場だけでなく市民の皆さんについても同じかと思っております。日常的にICTに触れて使えるようにしていく必要があります。例えばスポーツ観戦をする際に1画面で見るとはならず、ICTを駆使して多面的に見ることができるというように、普段からICTに触れるというようなことをしていけばよりスマートな生活の探求になるのかなと考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>市美展の取り組みについては、Webで開催していただいたことは判断が早く非常に素晴らしいなと思えました。開催しないという選択肢もあった中でWebでの開催という方針を立てて実行したということは、進歩であると思っております。今後、コロナが落ち着いてきたとしても、コロナ以前に完全に戻るといったことはないので、このような取組にチャレンジしたということは非常に良いことだと感じております。</p> <p>資料にありますとおり、デジタル化につきましては、令和元年8月にデジタ</p>

	<p>ル化推進宣言を行っておりまして、率先して進めている中で、菅総理がデジタル庁創設を含め、デジタル化を一気呵成に進めるという状況となっているわけではあります。それに先んじて デジタル化推進宣言を行い、またマイナンバーカードの交付についても早い段階から力を入れて取り組んできております。最近では菅総理の意向もあり、各自治体が都城方式を取り入れるなどしてかなり力を入れて取り組んでいます。本市としても、来年度以降も色々と考えながら、今後のインフラということで交付率向上のために、力を入れて取り組んで参りたいと思っております。</p> <p>私の3期目の柱の政策の一つとしてもデジタル化を掲げておりますので、デジタル化については注力して取り組んでいこうと思っております。教育分野におきましても GIGA スクールを中心に一気に進んでいくと思っております。またコロナによってよりデジタル化が進んでいくのだと思っております。私としては、そこにしっかり対応して参りたいと思っております。デジタル弱者と言われる方々につきましてはしっかりとフォローしていく必要がありますし、その点につきましては国のデジタル改革関連法案のワーキンググループの中でも申し上げてまいりましたし、現在その関連法案が国に提出されておりますが、その中でも誰一人取り残さないと言うことが重要命題となっておりますので、対処しながら前に進めてまいります。</p> <p>デジタル化について申し上げますと5年10年先になると、また様相が変わっているかと思っております。教育現場においても、変化に対応して先頭を切ってもらえればと思っております。</p>
児玉教育長	<p>1月26日に中央教育審議会が答申を出しまして、今回は、令和の日本の教育型学校の構築を目指してということで諮問したわけですが。答申では、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協同的な学びの実現という新たなキーワードが出てきました。キーワードに基づいて子供たちの教育にあたっていかななくてはならないと思っておりますし、市長のおっしゃったデジタル化を推進していくという後押しは非常にありがたいなと感じております。後押しがなければ、とても「個別最適な学び」と言うものは作れそうにありません。そのようなところを研究して参りたいと思っております。</p>
池田市長	<p>つづきまして、「都城市のキャリア教育について」担当課より説明をお願いします。</p>
教育総務課長	<p>教育総務課大田でございます。「都城市のキャリア教育について」説明させていただきます。</p> <p>～都城市のキャリア教育について説明～</p> <p>以上で説明を終わります。</p>
池田市長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>「都城市のキャリア教育について」ただいまご説明がありました。御意見ご</p>

	<p>ございましたら宜しくお願い致します。</p>
中原委員	<p>資料の12ページの②についてですが、国立教育政策研究所「キャリア教育が促す学習意欲」というものをWeb上で拝見したのですが、中学生の子供を持つ保護者の70%が「キャリア教育の名称を聞いたことがない」と回答したそうです。しかし、中学生になると将来の進路や生き方について話し合うことがあるようで、進学先や就学先の進路情報に関しては73.3%の家庭で話題に上っています。キャリア教育の象徴とも言える職場体験活動についても、「有意義だ」との回答が9割以上とのことで、中学校におけるキャリア教育、職業教育、進路指導に多くの保護者が期待を寄せていることが伺えます。とありました。</p> <p>中学生の子供を持つ保護者の70%がキャリア教育の名称を聞いたことがないということは、小学校でも同様の数値になるということが予想されます。一方、キャリア教育の推進は学習意欲の向上につながっているという統計もあります。今後の取り組みとしては保護者への啓発と理解の推進を図ることが肝要であると考えております。</p> <p>今回のテーマについて、身近な保護者の方にキャリア教育について尋ねてみました。すると、「聞いたことはあるけど、中身は全くわからない」という回答がほとんどでした。ざっくり言うと、職場体験的なものというイメージはあるようでしたが、それが学習意欲にもつながり自己実現に向けての取り組みであるというようなことは、説明すればするほどぼんやりしてくるような印象も受けました。</p> <p>キャリア教育は、一人一人にとっての大切な取組であるということを、子供と保護者とに咀嚼しながら説明していくことが肝要であると感じました。</p> <p>以上でございます。</p>
赤松委員	<p>私は、キャリア教育を少し難しく考えすぎているという風に思っているのですが、子供が広い視野を持つことができれば、その中から自分に合う高校とかそういったものを自分で見つけ、目標を定め、そしてそれに向かってどう努力していけばいいかということを考える。それを支えてあげるのがキャリア教育である。つまり生き方をどう支えてあげるのが、それがキャリア教育だと私は思っております。であれば、どのように視野を広げてあげれば良いかと考えております。</p> <p>今年度は、コロナ禍で実施できていませんが、オーストラリアへの海外派遣事業の事業報告書を読んでも期待を持ち目標を持って望んでいます。1週間体験して戻ってきて、その体験が視野の拡大に非常につながっている。また、今後の目標をしっかりと定め、学んでいこうと意識付けに非常に役に立っている。</p> <p>このような経験がコロナ禍で得られにくくなっていますが、そのような体験をすることで広い視野から物事を見て、自分が進んでいく方向を見つけられるように、行政としてもそのような方向で進んで行っていくようお願いいたします。</p>
岡村委員	<p>私の経験なのですが、20数年前学校教諭の時に、職場体験学習を行いました。役場、郵便局、保育園、特別養護老人ホーム、工場などに出向きましてお願い</p>

	<p>したり、あるいは保護者の職場にお願いしたりして職場体験を受けていただきました。</p> <p>子供達は、とても楽しみながら働くことを学び、保育園で学んだ生徒は保育士になりました。老人ホームで体験した生徒は建築家になりまして、方向性は変わったのですが、とても良い経験ができたと思っております。池田市長の新聞記事に「コロナ後の地方は」というものがありました。「人の価値観の変化」、「若者を中心にスローライフを志向・地方を志向する動きが加速する可能性」、「地方の受け入れ準備」、「第5世代を見据えた移動通信システム導入」などのキーワードが記載されています。キャリア教育についても同じように考えていたら良いのではないかと思っております。市にはスピード感をもって取り組んでいただけたと思います。</p> <p>2015年に今後10年から20年後に約半数の仕事が消える可能性があるという研究もなされています。仕事も変わってくると思いますので、今の子供達のニーズ、それから将来の子供達、5年10年後の子供たちの環境の変化を視野に入れながら計画を立てていただければと思います。</p> <p>子供達の中には将来「YouTuber」になりたいという子もいます。高校生の起業家もいて相当の収入を得ているという方もいます。Society5.0の社会の中で、自己実現できる児童生徒の育成に力を貸していただきたいと思っております。</p> <p>キャリア教育は、まさに生き方の教育だと思います。児童生徒には様々な生き方があることを知ってほしいですし、都城版キャリアパスポートにおいても自分の将来を自分で選択する力を養う家庭が記録されますので、児童生徒の振り返りに大いに役立ち将来の糧となると思います。</p>
<p>濱田委員</p>	<p>学校教育の中でキャリア教育というものは、どの学校も学校経営案というものを作っております、その中で明確に位置づけられております。その中では「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理」「課題対応能力」「キャリア形成能力」の四つの能力を育成することが謳われています。これは学習指導要領によるものです。</p> <p>学校の先生方は、キャリア教育の意義をよく理解されていると思いますが、問題はキャリア教育を実践する際に先生方がどこに相談をすれば良いか分からないことです。キャリア教育は多くの場合、外部の機関と連携して行われるという性格がありますので、どこにそれをお願いしたらいいか、見学をしたらいいかわからないということが生じます。それについては、担当課から紹介のありましたキャリア教育フォーラムに先生方が参加することで、キャリア教育を進めるヒントを提供してくれるものと思います。</p> <p>もう退職しましたがけれど、私は、高等教育機関でキャリア教育の中の一つの就職指導を行っておりました。この時に学生には、就職先あるいは進学先を徹底的に調べなさい。それと同時に自分自身を徹底的に調べなさいと指導しておりました。自分自身が何を求めているのか。どの方向に向かいたいのか。今どのような位置にいるのかということをしっかり押さえなさい。と指導してまい</p>



	<p>りました。</p> <p>就職に際しては、志望動機というものが必ず必要となります。いいと思う企業があり、自分を徹底的に調べて、それが合致した時それが志望動機であり、説得力のある志望動機になると思います。これは高等教育の話になるのですが、初等中等教育においてもまずは知ることだと思います。</p> <p>社会であつたり、進学先であつたりを知ることが一つです。次に、自分は将来何がしたいのか、今の自分はそれに向かっているのかという内省つまり自分を振り返るといふこと。この二つが重要です。キャリア教育フォーラムは先生方へのヒントになりますし、キャリアパスポートは子供達の内省や自己肯定感の育成のための材料になると思います。是非進めていただきたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
池田市長	ありがとうございます。他にはありませんか。
赤松委員	<p>現在、コロナ禍という厳しい状況において、学校の多くでは教育活動に様々な制約を受けながらも、創意工夫を凝らして取り組んでいただいている状況だと思っております。今後、ワクチン接種が進み、コロナウイルス感染症に対する研究も進み、これまでと違った対応が求められてくるというように動いていくのだらうと思っております。今後は、ぜひ専門家の意見も聞きながら、学校教育においてコロナ禍に十分対応し、数多くの素晴らしい体験を子供達に広げていけたら、先がパツと明るくなっていくような気がしますので、そのようにお取り組みいただけたらありがたいと考えております。</p>
池田市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ところで、キャリアパスポートというのは、通知表のように毎年積み重なっていくというようなイメージだと思うのですが、そのような理解でよろしかったですか。</p>
児玉教育長	<p>はい。例えば高校の進学の際の面接や、大学進学の際の面接の時に、私はこのようなことをやってきたということの説明するようなものになる。というのが文部科学省のゆくゆくのかの考えのようです。</p> <p>自分を見つめるとか、自己肯定というところで非常に良いかなと思っております。</p>
濱田委員	<p>今では大学などではポートフォリオと言って、試験などがあるとどこが悪かったのかということ自分で分析して、それを残すところが増えておりますが、それに似た取り組みであると思っております。</p>
池田市長	他の自治体でも導入されているのですか。
学校教育課	<p>はい。取り組んでいる自治体も増えており、宮崎県も来年度から実施となっております。県が主導し、それを各自治体がカスタマイズしていくという形になります。</p>
池田市長	<p>それぞれの自治体が特色のあるものを作っているということですね。</p> <p>それは保護者も見ることができるのですか。</p>
学校教育課	はい。

池田市長	<p>親も子供がどのようなことを考えているのかを理解できるということですね。</p> <p>キャリア教育で言えば、本市も地元の企業を知るということで、高校生を対象に企業巡見という取組を行っております。そもそも本市にどのような企業があるのかを知らないということがあり、実施しておりますが、先生からは親も一緒に連れて来てくれと言われ、なるほどと思いました。</p> <p>要は、保護者が都城にどのような企業があるのかを知らないのです。子供が地元の企業に進みたいと思っても、親がよく知らないということで名前を知っている企業に就職した方がいいのではないかという話になるようです。そこで企業巡見では、保護者も一緒に見に行くという形でのキャリア教育を行っております。</p> <p>また、各学校が様々な取組を行っています。昨年度、キャリア教育の一環として、カレー屋さんであったり、お医者さんであったり、様々な職種の方が話す場に、私も「市長」という職業を代表して、学校でお話をさせていただきました。</p> <p>その場には保護者の方はPTAの方くらいしかいらっしやらなかったと思いますが、主催者はPTAでしたので、保護者も関わってそのような取組を実施するのはとても良いことであると思いました。そのようにキャリア教育を浸透させていきたいと考えております。</p> <p>委員の皆様がおっしゃったように、キャリア教育は生き方教育だと思います。子供たちに多くの機会を創出し、いろんな経験をしていただいて、そこから自分の将来に繋げていたければと考えております。</p> <p>教育長いかがでしょうか。</p>
児玉教育長	<p>人間力ということがよく言われます。今回の新たな大綱も人間力に触れていますが、当たり前のことが当たり前にできるということですが、それがまさしくキャリア教育が大きく関わってくると思います。</p>
池田市長	<p>キャリア教育は生き方教育であるということですね。</p> <p>先生方からは、御意見等はありませんか。それでは、以上とさせていただきます、事務局にお返しします。</p>
吉永総合政策部長	<p>本日は活発に議論いただきありがとうございました。大変有意義な意見交換になったと思います。</p> <p>以上をもちまして、令和2年度第2回総合教育会議を終了いたします。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>